

「めざせ!パターンからの脱却」の巻

数日後…

2ピースのパズル、
できませんでした…

それは
よかったです

えっ!?

それは、**子どもの
実態を把握**できたとい
うこと。

さあ、あとはその子の
発達段階に適した教材
を活用して取り組んで
みましょう。

な、なるほど…

説明します。

2ピースのパズルが
できないのに、47ピースができた
のは、**パターンで覚えている可能
性**があります。(※1)
このような場合には、
いつもの安心してこなせる課題
をしながらも、**提示方法などに少
しずつ変化をつけること**が
大切です。

例えば、物を分ける課題
なら、コップとお皿に
分けるなど、身近な物を
活用すると良いですよ。慣れてき
たら、色つきスプーン、フォーク、
ナイフを種類別に分けた後、色別
に分けてみてください。変化をつ
けた際、**怒ったり混乱したりする
かもしれない**(※2)が気長に
取り組んでください。

(※1)草の実教材ライブラリーのパターン知覚水準参照 百均のプラスチックカトラリー

(※2)パターンの学習様式の中で安心感を得ていることがあるため

気に入らないことがあると、
癇癪を起こしたり…

好きな言葉を
好きなときに
発したりして…
指示が
通らず、
会話になら
ないことも
よくあります。

2

先生、
大切なのは、
『実態把握』
ですよ。
まずは、2ピース
のパズルから
始めてください。

2ピース!?

4

草の実分校支援部教員

なぜ!?

3

そうして課題に取り組んでい
たある日…
物と言葉の意味が、びったり
合うようになってきたのです!

フォーク
スプーン

実物にマッチした名詞を
言えるようになった A
さん。本の絵を見て「ア
ーキーりん」と絵に合った
単語を言えるようにな
りました。更に、食器の色
分けでは、「ウッド」、ブル
ー」と英語を言いながら
色分けする姿も見られる
ようになりました。

8